

事業事前評価表

東南アジア・大洋州部東南アジア第六・大洋州課

1. 案件名(国名)

国名: バヌアツ共和国

案件名: ビラ中央病院改善計画 Project for the Redevelopment of Vila Central Hospital

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの開発実績(現状)と課題

ビラ中央病院(ベッド数 152)は、バヌアツ国最大の人口を抱えるシェファ州の基幹病院としての役割を 30 年以上果たすだけでなく、国内で専門的治療が可能である唯一の中央病院として同国のリファラル体制(病院間の患者の紹介システム)のトップに位置し、また医師・看護師養成のための教育病院として位置づけられている。同病院の患者数は年々増加し、特に外来患者は開院時に比べ倍増(2010 年の総外来者数は 117,589 人)となっている一方、1975 年にイギリスによって建設されて以来一度も改装が行われていないことから老朽化が進み、救急外来施設や手術室などの不足や建物全体の躯体の欠損、天井・床等の損傷、医療機材の故障などの問題に加え、衛生面でも問題を抱えている。また、施設が分散している等の事情により、国内の最高次医療機関としての適切なサービスが提供できる環境が整っていない。そこで、外来部門や診療部門を中心に早急な施設の改善が課題となっている。

(2) 当該国における保健セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

バヌアツ国保健セクター戦略(2010-2016)では、「国民の健康状態が改善される」ことを最終目標とし、そのためにすべてのレベルにおいて、「アクセス」、「質」、「効率性」の改善を図ることを政策目標としており、保健医療サービスの普及を促進するため、医療人材の育成、機材の整った病院等のインフラの整備をすることによりバヌアツ国国民の健康改善に取り組むこととしている。本事業はこの政策目標を達成するために重要な位置に定められている。

(3) 保健セクター地域に対する我が国及び JICA の援助方針と実績

我が国では 2009 年に開催された「第 5 回日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議」(太平洋・島サミット)において MDGs の達成に向けた「脆弱性の克服と人間の安全保障の推進」に対する協力が打ち出され、その中の一分野として保健医療への支援を行うこととしている。これを受けて我が国及び JICA は同国において、中央病院の改善や保健人材の育成強化を通じて保健医療サービスの向上を図るため、「島嶼型保健医療プログラム」を形成している。

(これまでの我が国及び JICA の支援実績)

これまで我が国は、バヌアツ国の保健セクターに対して感染症対策分野(医療特別機材、青年海外協力隊事業、一般無償資金協力、草の根技術協力)における協力を中心に行ってきた。また、同病院に対してこれまで以下の協力を実施。

- ・一般無償: 国立病院機材整備計画(平成 6 年度)同病院他に約 3 億円の機材供与実施
- ・草の根・人間の安全無償資金協力(平成 18 年度)同病院に医療用焼却炉の供与

(4) 他の援助機関の対応

AusAID からアドバイザーが保健省に入り財政に係る助言を行っている他、ビラ中央病院に AusAID、中国からの医師が派遣されている。なお、ビラ中央病院の機材整備については、AusAID、NGO による単発の支援、フランスの支援による看護学校の建設及び機材供与がなされたものの、大規模なものは行われていない。

3. 事業概要

(1) 事業の目的(協力プログラムにおける位置づけを含む)

バヌアツ国シェファ州ビラ中央病院において新外来・検査棟の建設及び医療機材の供与を行うことにより、国内の最高次医療機関としての医療サービスの強化を図る。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

バヌアツ国シェファ州ポートビラ市（人口：約 29,000 人）

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機器等の内容

【施設】新外来・検査棟（手術部門、放射線部門、検査部門、救急部門、一般外来部門、特殊設備：雨水利用設備、排水処理設備）の建設(2,635.64 m²)

【機材】上記施設内の手術部門、放射線部門、検査部門、救急部門、一般外来部門への医療機材供与

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

医療サービスの持続性確保の観点から、ビラ中央病院の医療従事者・維持管理課技師に設備・医療機材の保守管理活動を習慣づけるとともに、設備・機材保守管理に係る事業計画の策定能力強化のための協力を行う。

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費 14.73 億円（概算協力額 日本側：14.70 億円、バヌアツ国側：0.24 億円）

(5) 事業実施スケジュール(協力期間)

2012 年 7 月～2014 年 4 月を予定（詳細設計、入札期間含む計 27 ヶ月）

(6) 事業実施体制(実施機関/カウンターパート)

保健省、ビラ中央病院

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

カテゴリ分類:C

本事業は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010 年 4 月公布)上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) 貧困削減促進

特になし。

3) ジェンダー

特になし。

(8) 他援助機関等との連携・役割分担

ビラ中央病院に青年海外協力隊（看護師隊員）1名、また、バヌアツ看護学校にシニアボランティアを派遣中であり、本事業によって整備された施設及び機材を利用した医療サービスの向上に貢献する。また、ビラ中央病院に AusAID や中国からの医師が派遣されている。

(9) その他特記事項

特になし。

4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

・バヌアツ国によって新規施設の適切な運営維持管理に必要な予算が確保される。

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

・バヌアツ国内の政情・治安が悪化しない。

・バヌアツ政府により、ビラ中央病院における医療サービスを維持するために必要な医療スタッフ（医師/看護師等）が継続的に育成・確保される。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

既往の病院建設事業の事後評価結果によれば、海辺に隣接する等の特殊な自然条件下に病院施設を建設する上で、地盤の構成や強度等について設計段階から考慮することが重要とされている。

(2) 本事業への教訓

本事業では、新たに建設する外来・検査棟の建設予定地が海辺に隣接していることから、地盤強度の検査結果等を通じて実施する予定。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

2. (1) に記載のとおり、本案件は緊急性が高く、また、バヌアツ国の開発政策・我が国の援助方針とも合致していることから、妥当性は高いと判断できる。

(2) 有効性

1) 定量的効果

成果指標	現状の数値（2010年）	計画値（2017年） [事業完成3年後]
適切な環境下で受け入れるリファラル数（件）※1	—	476
適切な環境下で医療サービスを受けられる一般外来患者数（件）	—	81,890
手術件数（件）	2,183	2,416
大腸内視鏡検査数（件）※2	0	364

- ※1 国内施設からリファーされて受け入れる患者数
- ※2 現在、上部消化器内視鏡はあるが大腸を検査する内視鏡を保有していないため関連の手術が不可能である状況。本事業で機材を供与することで検査が可能となる。検査需要が7～19件／週間の割合であることから、大腸内視鏡の導入により年間で最低364件程度の検査数が見込まれる。

2) 定性的効果

- ① 医師・看護師の技能強化
- ② 術後感染リスクの低減
- ③ 医療サービスの効率性の向上

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2) 1)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成3年後

以上